

# アイヌシアターってなんですか!?

## 2010年度は設計費3千万円、11年度は建設費3.7億円

### 財源の旧基金は市民要望の強いものに



アイヌシアターの財源は、産炭地域総合発展機構の助成金、いわゆる「旧基金」をあてます。この基金は毎年、市民要望の強い公共施設の修繕などに使い、市民生活を支えながら、あわせて公共事業が減っている中で、貴重な中小建設土木業者の仕事の原資となっていたものです。

市民要望が強い「交流プラザさいわい」の建て替えは、財源がなく5・6階撤去による耐震補強となりました。阿寒総合福祉センターも老朽化で休止します。こうした施設にこそ、旧基金は優先して使わなければならないという考えです。

旧基金は優先して使わなければならないという考えです。

共産党議員団は突然の提案であり、十分な市民理解を得るよう努めること旧基金については、修繕事業に主として使うこととの意見をつけて、アイヌシアターの設計費には賛成しました。(予算案全体については、福祉切り捨てなどの理由で反対しました。)



**村上かずしげ** 通信

10.4.4 発行 村上和繁 23-5212

### 突然の提案に市議会もびっくり

22年度予算に突然提案された「仮称阿寒湖畔アイヌシアター」。イオマンテの火まつりや古式舞踊などを見せる劇場を4億円で作ると言います。

議会議論や住民との話し合いながら決めるのが普通なのに、一年間ワーキンググループで話し合っただけで、ほとんどの人には「寝耳に水」の話です。

与党も「唐突な感じ」「アイヌの政策では、劇場建設よりソフト事業の方が大事なのは」と質問するほど、突然の提案で、市長がしつかり進めると言っていた「総合計画」にも載っていません。

市はきちんと市民に説明、理解を得るべきです。

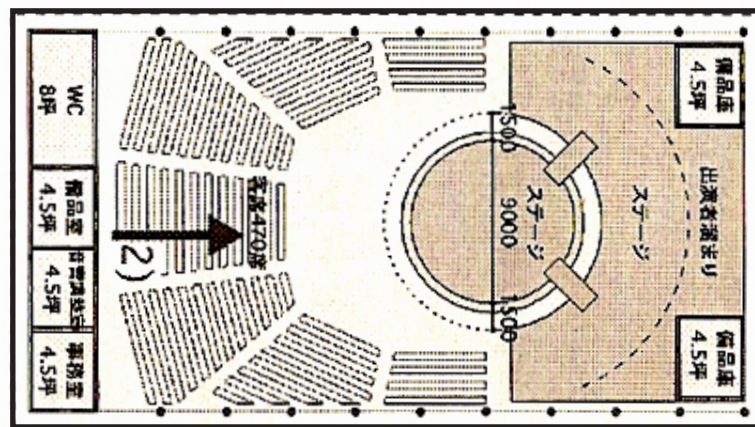


### 民間の劇場を市費で建設?

アイヌ文化を伝承し、国内外に広めることは市にとっても大切な施策です。また、観光を生業として生活するアイヌコタンの人たちの営業・生活を支えるのも当然です。

しかし、アイヌコタンの既存の施設はすべて民間でつくったもの、今回の劇場も「専用劇場」で民間が使うものです。

それであれば、「民間が建設主体となつて、建設費については有利な補助制度も活用しながら、市が支援する」という仕組みの方がよいのではないかと提案しました。市の施設として建設すれば、赤字になつた場合の運営費の補てんや修繕費などが、先々まで市の負担が発生することが考えられます。



鉄筋コンクリート造、約1,000㎡ 600人収容 (観客席400席と立見席200名分)